

13 Why Children Learn From Sesame Street

まとめの章。セサミが成功した要因について検討し、今後について触れている章。

- ・ 形成的評価は、セサミストリートベースの教材（雑誌やアウトリーチ、インタラクティブテクノロジー、メディア）を制作過程における方法。
- ・ プリ・スクールでセサミの総括的評価も、世界中で行われた。
- ・ 社会的行動はいまいち（協調性の促進とか）。
- ・ 計算、emergent総発的なリテラシー、学校のレディネスでは効果
- ・ セサミ・インパクトは長年にわたって続く（5章）
- ・ Academic Performance高校後期で現れる（プレスクール時代に見たか見ないかで。）
- ・ リテラシー、向社会的行動、数学のスキル、人種関係、死の理解で、成長が。

Why Do Children Learn From Sesame Street?

- ・ 子どものメンタルなプロセスではなく、シリーズ性そのもの。
- ・ 何が特徴的なのか。
- ・ 理解と学習における潜在的な役割。
- ・ 9個の要素がうかびあがってきたことを示唆。

1) A Detailed Curriculum

- ・ 総括的な教育カリキュラムと、セサミを取り巻くプロセス
- ・ セサミのカリキュラムには、以下に関する詳細なガイダンスがあった。
 - ・ シリーズで方向付けられるサブジェクト領域
 - ・ 特定何とその領域で達成されるのか

2) Appeal

- ・ 教材が子どもの理解に役に立つらしいということをアピール。
- ・ 複数のアクティビティができるようにした。
 - アクティビティを競合させることで、より注意をひく。この注意が理解につながる。
- ・ アピールは理解の貢献する。
- ・ 理解可能性は注意を引く貢献はする。（ギリシャ語の例）
- ・ 理解と注意は相互関係にある。
 - 教材は、理解できるもの&ターゲットとなる視聴者の発達段階にあっていれば持続する。

3) Explicitness and "Concreteness"（明快さと「具体性」）

- ・ 放送内容を、プリスクールチルドレンにとっては明快に、できるだけ具体的に。
- ・ 背景知識ができるだけ必要ないように。

4) Child-Centered and Child-Relevant Content

- ・ 教育内容が、狭いコンテキストの場合のほうが、親しみやすく、意味のあるものなる。
- ・ 子どもの生活に関係のあること（3-5歳）。

5) Repetition and Reinforcement (繰り返しと強化)

- ・教育メッセージを強化している
 - たくさんのエピソードを通じて同一セグメントの繰り返し。
 - 同じトピックを扱ったいくつかの異なるセグメントの繰り返し。
- ・同一セグメントの複数の繰り返しは・・・
 - 最初に見逃した子どものため。
 - 最初に見て新しい概念を作った子には、再度みることで、完全に強化する。

6) Modeling and Identification

- ・誰が情報を伝えるのか(何を伝えるか、というだけでなく)
- ・マイノリティをレギュラーとして扱った初めての番組シリーズ。
- ・3段階の刺激
 1. 彼らに似ているモデル 学びやすさ
 2. 違うモデル Identification。特定のグループに限定しないというメッセージ
 3. 登場人物みんなが楽しんでやっているということ。LOVE of Learning

7) Involving Viewers and the Role of Participation

- ・視聴者は受身ではない。
- ・さまざまな方法で視聴者を参加させた
 1. ゲームに参加させる。
 2. スクリーンのキャラクターがやる前に、答えを出させる機会を与える
 3. スクリーンのキャラクターがした間違いを、視聴者に修正させる

8) Ongoing Formative and Summative Research

- ・セサミの制作物に対して、批判的な役割を演じてきた。
- ・実証的研究
- ・オン・エアされるまでに。

9) The CTW Model

- ・継続的なプロセス：プロデューサーと、研究者、教育内容のスペシャリストとのコラボ。

The Role of Parents and Caregivers

- ・テレビそのものは、(ほっといても)個別指導にはならない。
- ・親の存在の重要性。

Extending Into Other Media

- ・テレビだけでなく、複数のメディアで(インタラクティブ教材、教育的Toyの開発)。
- ・それぞれのメディアは、特定の強調を。教育内容を伝えるそれぞれの機会。

The Future

- ・WebTVとの連携等々